

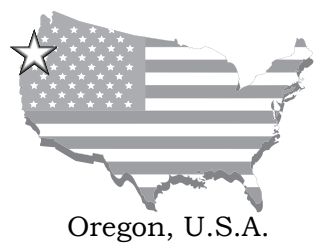


Tokyo, JAPAN

オレゴン留学日記 (4)

早稲田大学教育学部 3年・オレゴン大学へ留学中

清沢 健二



Oregon, U.S.A.

どもお久しぶりです。いま私は、冬休みを利用してメキシコへ旅行しています。

今回の留学記は、メキシコの南東部にあるパレンケという熱帯雨林の中からお届けさせていただきたいと思います。紀元前から10世紀末までの間、高度な天体観測技術を持ち、正確な暦を使っていながら、忽然と密林から消えたミステリアスなマヤ文明。そして800年もの間、スペイン人宣教師に発見されるまでジャングルの奥深くに眠っていたマヤの大遺跡。歴史が好きな私にとっては、この場にいるだけで古代へのロマンがかきたてられます。今回は、前回少しお話ししたボストンキャリアフォーラムと、その後の留學生活、そしてメキシコ旅行についてお話しさせていただきたいと思います。

ボストン・キャリア・フォーラム

私はいま大学三年で、私の日本での友人はすでに就職活動を始めています。しかし私は留学をしているので、日本での就職活動ができません。ですので、就職活動活動がどのように進められるのかを知るために、ボストンで3日間行われたキャリアフォーラムに参加しました。そのフォーラムでは、留学生を対象とした採用が行われ、日本の企業や外資企業を含めて、204社が参加していました。キャリアフォーラムに参加する前に、私たちは履歴書をウェブ上で送り、書類選考が行われた後に面接のアポイントメントを取ります。ボスト

ンの会場では1次から3次面接が行われ、その場で内定をもらう場合もあれば日本での最終面接に招かれる場合もあります。

ほとんどの会社が即戦力になるような卒業間近の学生を求めているのですが、私は数社の面接に参加することができませんでした。面接を進めていく中で、私のはっと考えさせられた場面がありました。それは、「なぜ？」という単純な質問です。私がある会社で働くとして、そこで何をしたいかという質問をされました。私は新しいことに挑戦し、様々なアイデアを出していきたいと伝えました。そして面接官が聞いてきたのは、「なぜ？」という一言。私の頭の中では、会社の中で自分ができることを考えるのが精一杯で、なぜ私がそれをやりたいのかということを考えてことは一度もありませんでした。

その場では言葉に詰まってしまって、今はどうやって答えたいか思い出すことができません。しかし後になって考えてみると、面接官の言葉が何を意味していたのかが、自分なりに見えてきた気がします。それは、私が今までどういった経験を積んできて、どういった考えを持っていて、それがどう志望動機につながっているのかということです。自分がこうしたい、と導きだした結論に対して、どのような課程を経てその結論に至ったのかを聞いていたのだと思います。私はこの面接を受けてから、自分が将来どういうことをしていきたいのかと考えるときに、なぜそれをしていきたいのかということ意識するようになりました。これは、私がボストンで得ることができた大きな収穫のうちの一つです。

留学先の日本人の友達

留学先には、早稲田からの留学生を含めて、たくさんの日本人がいます。アメリカに来てからしばらくは日本人とも英語を使って話すように心がけていましたが、留學生活が慣れていくにつれて、日本語を使う機会が多くなってきました。私にとって、留學における英語の上達はとても大事なものです。ですので、留學する前は日本人の友達になるべく作らずに、ほかの国からの留学生やアメリカ人の学生と積極的にコミュニケーションを取っていこうと考えていました。日本語を使うことに、非常にネガティブなイメージを持っていました。

しかし最近、日本人の友達との関係も、他の国からの友



ボストンの公園にて